

**2024 年度年次総会前の常務理事・理事 拡大理事会 ハイブリッド方式で開催  
(2024.06.08)**

対面式会場：ドイツ文化会館 4F OAG 会議室

時間	プログラム
<p>13:15 - 13:50 合計 25名 (うち現地参加 8人)</p>	<p align="center">== 常務理事会・理事会 拡大理事会 ==</p> <p>(常務理事) (11人) (下線は現地参加)  <u>縣 公一郎</u> (副理事長)、<u>伏木信次</u> (副理事長)、井田良、居城邦治、<u>岡林 洋</u>、<u>坂越正樹</u>、<u>高橋宗五</u>、<u>高山佳奈子</u> (副理事長)、武内謙治、西土彰一郎、和田 肇、山本敬三            (理事) (11人)            星野宏美、<u>細野 眞</u>、石田秀治、<u>松本洋一郎</u>、水野浩二、<u>仲道祐樹</u>、<u>荻野蔵平</u>、田口正樹、高田篤、渡辺紀徳 高田篤、宇高恵子            (顧問) 広渡清吾、櫻田嘉章 (監事) 吉川泰弘</p> <p><b>審議開始</b></p> <p><b>最初に理事長選出</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 2023 年度の活動報告 (資料1)</li> <li>② 2024 年度の活動方針 (資料2)</li> <li>③ 2023 年度の決算報告・2024 年度予算案 (資料3)</li> <li>④ 奨学金基金と財政安定化基金の会計状況について (資料4)</li> <li>⑤ 監査報告 (資料5)</li> <li>⑥ 2024 年度日独共同研究奨学金 採択案 (資料6)</li> <li>⑦ 支部活動について (拡大理事会でのみ報告) (資料7)</li> <li>⑧ その他</li> </ol>
<p>会員総会プログラム 開始</p>	
<p>14:00 - 14:50 (参加申込) 役員 26人 会員 25人 (うち現地参加 14人)</p>	<p align="center">== 日本フンボルト協会 2024 年度会員総会 ==</p> <p><b>理事長選出報告 理事長挨拶</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 2023 年度の活動報告 (資料1)</li> <li>② 2024 年度の活動方針 (資料2)</li> <li>③ 2023 年度の決算報告・2024 年度予算案 (資料3)</li> <li>④ 奨学金基金と財政安定化基金の会計状況について (資料4)</li> <li>⑤ 監査報告 (資料5)</li> <li>⑥ 2024 年度日独共同研究奨学金 (採択結果等) について (資料6)</li> <li>⑦ その他</li> </ol>
<p>15:00 - 16:00 (参加申し込み 61人 +友の会 9人)</p>	<p align="center">== 講演会 ==</p> <p>題目：『海洋・地球生命フロンティアの探究と持続可能性について』            講演者：稲垣史生 先生 (2023 年シーボルト賞受賞)</p>

(16:30-18:00 現地参加の会員向け懇親会開催)

主催：日本フンボルト協会

## 1. 2023 年度年次総会について

- ・2023 年度総会を、ハイブリッド方式で開催した。会場はドイツ文化会館 4 階 OAG 会議室で 常務理事・理事 拡大理事会（13 時 15 分から～14 時）を開催しその後、会員総会（14 時～15 時）が行われた。

講演会は合田 圭介会員（東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授、2022 年度シーボルト賞）にお願いした。

テーマ：「どうなる！？ニッポンの科学」 司会：西川 伸一 会員（京都大学名誉教授）

参加者：対面式 20 名 オンライン 60 名。懇親会は 1 階のレストランで開催した

- 合田会員の許諾を得たうえで、会員用ホームページに期間限定で講演資料を掲載した。

## 2. 協会運営の諸会議について

- ・常務理事会を 2023 年 6 月 11 日（土）、8 月 26 日（土）、12 月 23 日（土）、2024 年 3 月 30 日（土）に、いずれも Zoom 形式で実施した。

## 3. ドイツ研究留学説明会の開催

- ・2024 年 3 月 16 日に DAAD との共催でドイツ研究留学説明会をオンラインで開催した。フンボルト奨学金、DAAD 奨学金の説明を全体説明会として行ったのちに、専門別分科会、ドイツ滞在中の子育てについての情報交換を行う子育て家族分科会を行った。147 名の登録があり、120 名前後の参加があった。参加者を対象に、個別に情報提供や相談を行うフォローアッププログラムを行った。また、全体説明会のビデオを協会のウェブサイトで公開し、留学希望者の利便を図った。

## 4. 日独学術情報発信について

- ・日本フンボルト協会主催・共催の Zoom 講演会をオンラインで以下の要領で開催し、毎回多くの参加者があり、活発な意見交換がなされた。

DAAD 友の会をはじめ、他のアルムニ会にも案内を出して、参加を募集した。

## 《日常の扉をあけるーゲートの『親和力』とその時代ー》

Covid-19 シリーズ第 8 回

日時：2023 年 11 月 11 日（土）14 時～16 時 参加者：50 名

登壇者：高橋義人会員（京都大学、当会常務理事）、岡林洋会員（元同志社大学、当会常務理事）

守矢健一会員（大阪公立大学、当会常務理事）

司会： 縣 公一郎会員（早稲田大学、当会副理事長）

## 《「ChatGPT に代表される生成 AI の社会的影響を考える」第一回 医学・生命科学の大変革》

日時：2024 年 1 月 13 日（土）16 時～18 時 参加者：80 名

1. 趣旨説明 西川伸一 会員（京都大学名誉教授）

2. 清田 純 博士（理化学研究所）

「ニューラルネットや Transformer/attention など AI の基礎になるモデルについて」

3. 対談 清田 純 博士（理化学研究所）

西川伸一 会員（京都大学名誉教授）

鈴木晶子教授（京都大学名誉教授）

## 《AI 第二回オンラインシンポジウム《AI との共生がもたらす学術へのインパクト》》

日時：2024 年 5 月 11 日（土）16 時～18 時 参加者：50 名

登壇者 1：\*熊谷 誠慈 先生（京都大学 人と社会の未来研究院教授）

「伝統知テックとこころテック：文理融合で明るい未来を創出！」

登壇者 2：\*鈴木 晶子 先生（国際高等研究所 主席研究員、京都大学名誉教授）

「AI との共生とヒューマン・トランスフォーメーション (Human Transformation: HX)」

（司会）西川伸一 会員（京都大学名誉教授）

## 5. 支部活動について

- ・新型コロナウイルス感染が収束する中、各支部ともオンライン形式で幹事会、総会、Zoomによる講演会などを開催し、支部活動の活性化に努めた。  
以下がZoomで開催された支部主催の講演会です。

### \*\*\*北海道支部\*\*\*

#### ① 2023年度“Humboldt-Forschungspreis”受賞記念講演会

日時：2023年7月8日（土）15:00-16:00

講演者： Prof. Dr. David Wolff（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

講演題： The Russian Eagle Looks Both Ways: East and West and the Rhythm of Modern Russian History（ロシアの鷲は両手を見る：東洋と西洋とロシア近現代史のリズム）

#### ② 2023年度北海道支部主催講演会 Zoom 配信

日時：2023年9月23日（土）15:00-16:00

講演者：Prof. Dr. Olaf Karthaus（公立千歳科学技術大学・教授）

講演題：『「マイクロプラスチック」は新しい環境問題ですか？』

### \*\*\*東北支部\*\*\*

《2023年度 東北支部 2023年度総会における講演会 Zoom 配信》

日時：2023年9月23日（土）12:00 - 13:15

講演者：千葉征司教授（東北大学大学院理学研究科天文学専攻天文学講座）

講演第：「近傍宇宙論：古い星に刻まれた銀河形成史と暗黒物質の正体」

### \*\*\*関東甲信越支部\*\*\*

～～～2023年度総会における講演会～～～

#### ①日時：2024年1月21日 16:15~17:15

講演者：澤田誠二会員および浅野忠利氏

講演題：『近現代の「住宅・まちづくり」—ドイツ・日本にその系譜をたどり、共同研究の道を探る』

#### ②オンライン講演会 「刑罰の思想と歴史」

日時：2024年5月25日（土）午後14時から15時半

講演題① 「刑罰の思想史」

講演者：井田良会員（中央大学法科大学院教授）

講演題② 「伏魔殿での裁判」

講演者：香田芳樹 会員（元慶應義塾大学教授）

### \*\*\*中部支部 \*\*\*

2023年度総会におけるZoomオンライン講演会

日時：2023年12月10日（日）13:30-15:00

講演者：北村陽子 氏（名古屋大学文学研究科准教授）

講演テーマ：「20世紀ドイツにおける福祉国家の発展—戦争障害者支援をもとに」

### \*\*\*関西支部\*\*\*

2023年度総会における講演会

日時：2024年3月3日（日） 14:00～16:00

講演会テーマ：

「最新技術による医学研究と日本・欧米における自然科学研究推進に対する取り組みの違い」

講演1：「難治性免疫疾患のシングルセル解析による病態解明」

藤井 渉会員（京都府立医科大学 免疫内科学 病院助教）

講演2：「がん病態の多様性の中にある普遍性」

林 嘉宏先生（立命館大学 薬学部薬学科 腫瘍病態制御学教授）

\*\*\*中四国支部\*\*\*

「支部通信」を作成し、メール等で配信した。

\*\*\*九州支部\*\*\*

日時：2024年4月25日（木）18時30分～20時

講演者：土井和重先生（北九州市立大学法学部）

講演題：「学説と実務の協働を可能にする日本法研究—日本法研究の新たな担い手とその可能性」

6. 第5回日独共同研究奨学金 2023年度日独共同研究奨学金採択者について

2023年度、第5回日独共同研究奨学金の募集を実施し、4件（理系3件、文系1件）の申請があり、選考委員会で審査が行われた。\*\*\* 5月24日に12名からなる日独共同研究奨学金の選考委員が審査した結果、以下の通り授与することを決定いたしました。\*\*\*

2022年度分が1件辞退されたので、2023年度分は3件の採択となった。

\*\*\*\*\*

1. 課題：『超高速蛍光寿命イメージングによる細胞内小器官の大規模解析』  
（ドイツ語）Großflächige Analyse intrazellulärer Organellen

durch ultraschnelle Fluoreszenz-Lebensdauer-Bildgebung

助成対象者：Vishnu Narayanan Suma Sreechakram,

学歴：Indian Institute of Science Education and Research, Bhopal (MS)

所属：Justus-Liebig-University Giessen, 研究分野：Biological Sciences

申請者：合田 圭介（東京大学大学院理学系研究科）

研究分野：物理学、化学

\*\*\*\*\*

2. 課題：『日本の一党支配体制における立法上の野党の役割』

（ドイツ語）Die Rolle von Oppositionsparteien in der Legislative im  
von einer Partei dominierten System Japans

助成対象者：Elena Korshenko

学歴：ロンドン大学 School of Oriental and African Studies 修了（2013/12）

東京大学社会科学研究所 客員研究員（2017/4～10、2018/10～2019/3）

所属機関：ベルリン自由大学 歴史・文化学部日本研究所

研究分野：日本政治

申請者：小嶋 大造（東京大学大学院農学生命科学研究科）

研究分野：公共政策（農業政策、財政政策）

\*\*\*\*\*

3. 課題：『原子核時計実現に向けたトリウム229イオンのレーザー冷却技術の開発』

（ドイツ語）Entwicklung einer Laserkühltechnologie für Thorium-229-Ionen  
zur Realisierung einer optischen Uhr

助成対象者：Johannes Tiedau

学歴：PhD student (Universität Paderborn) (2015/11～2020/3)

学位取得 (Universität Paderborn) (2020/9)

Postdoc (Physikalisch-Technische Bundesanstalt) (2020/10～)

研究分野：原子時計・イオントラップ・量子光学

申請者：山口 敦史（専任研究員、国立研究開発法人 理化学研究所）

研究分野：原子時計・原子のレーザー精密分光・イオントラップ

\*\*\*\*\*

7. 「日本フンボルト協会ニューズレター」（Nr. 11 2023年9月）を刊行した。

以上

## 1. 2025 年度年次総会について

- ・利便性を考慮して、今回同様、対面・オンラインを併用したハイブリッド方式にて、開催時期、開催場所等について、引き続き常務理事会で検討していく。対面懇親会を継続し、会員間の直接交流を促進していく。

## 2. 留学説明会について

- ・ドイツ研究留学説明会をオンラインで開催し、フォローアップ希望者を対象にフォローアッププログラムを実施する。説明会については、昨年度までに行ってきた全体説明会と分科会の組み合わせを基本とし、詳細については担当者で協議の上実施する。

## 3. 学術情報発信について

- ・日本フンボルト協会による日独学術情報発信の一環として、アクチュアルな学術テーマについて、本協会主催の講演会や討論会などを、ハイブリッド方式、もしくはオンライン方式にて引き続き積極的に開催する。

## 年次講演会

- ・日時：2024 年 6 月 8 日(土) 15:00-16:00 ハイブリッド方式
- ・講演者：稲垣史生 会員（2023 年シーボルト賞受賞）  
国立研究開発法人海洋研究開発機構・東北大学 変動海洋エコシステム高等研究所  
(WPI-AIMEC) 副研究所長・研究部門長
- ・演題：『海洋・地球生命フロンティアの探究と持続可能性について』

## 生成 AI に関する Zoom 講演会

2024 年 5 月 13 日に実施した第二回に続き、年度内に 1 - 2 回の講演会を企画する。

25 年度年次講演会：24 年シーボルト賞受賞者に講演を打診する。

- ・日独学術交流に関する日本フンボルト協会主催の講演会や討論会についての情報を、要請に応じて、他のアルムニクラブや学会などに提供し、フンボルト協会の活動に関する発信に努める。

## 4. 日独学術交流の促進について

- ・日独学術交流を一層発展させるために、それぞれの学術分野において、さまざまな方策を検討していく。

## 5. 支部活動について

- ・各支部の活動の一環として、例えば DAAD 友の会と連携した企画を検討するなど、支部活動の一層の活性化を進める体制を、協会本部としてもサポートしながら構築していく。

## 6. 協会会員について

- ・日本フンボルト協会の会員数を増やすための方策のひとつとして、昨年度に引き続き、シーボルト賞など、日独学術交流に関する各賞受賞者に賛助会員としての入会を要請するなど、新会員の獲得を図る。

## 7. 協会財政安定化について

- ・会費未納会員に対する対応策を引き続き検討すると同時に、各方面に本協会活動への理解と支援を求めていく。

## 8. 第 7 回日独共同研究奨学金制度

- ・広く本奨学金制度を周知することにより、申請数の増加に努めると同時に、優秀なプロジェクトへの同奨学金制度によるドイツ研究者との共同研究の助成を、引き続き推進する。

以上

(収入の部)					
	項目	2023年度予算	2023年度決算	2023年度 明細	2024年度予算
1	年会費	2,400,000	1,944,000	486口（内訳：2022年度2口、2023年度482口、2024年度1口、2025年度1口）	2,200,000
2	利息	20	9	普通預金利子	20
3	寄付	50,000	29,000	下記参照	30,000
4	フンボルト財団支援金	84,700	85,219		0
5	総会懇親会参加費	30,000	34,000	2,000円×17人	30,000
6	収入小計	2,564,720	2,092,228		2,260,020
7	前年度繰越金	1,425,712	1,425,712		1,019,998
8	収入計	3,990,432	3,517,940		3,280,018
(支出の部)					
	項目	2023年度予算	2023年度決算	2023年度 明細	2024年度予算
9	総会・説明会等開催費	150,000	112,524		120,000
10	支部運営助成費	600,000	410,000	北海道(100,000+講演会補助10,000) 関東甲信越支部(200,000) 中部支部(100,000)	580,000
11	会合費	30,000	16,000		30,000
12	シンポジウム、講演会等謝礼（新）	100,000	40,000	講演会の謝金	100,000
13	通信費	200,000	226,251	会費請求・ニューズレターの送付等、 電話使用料（友の会と折半で）16,250	200,000
14	印刷・複写費	100,000	78,939	会報印刷など	100,000
15	事務所施設利用費	50,000	48,957	（以下DAAD友の会と折半で） 電気代21,457 事務所清掃代27,500	50,000
16	事務経費（名称変更）	100,000	63,841	Zoom設定費22,755、事務用品費	220,000
17	事務局人件費	1,400,000	1,399,300	事務局員への謝金、 発送の手伝い要員の費用、交通費	1,400,000
18	振込手数料等	5,000	4,630	銀行振込手数料、ゆうちょ銀行手数料	5,000
19	予備費	100,000	68,500	DAAD東京事務所長接待、浅田先生偕ふ会参加費用	100,000
20	寄付金払い出し（新） （12月22日に寄附口座に 振替済）	50,000	29,000		30,000
21	支出小計	2,885,000	2,497,942		2,935,000
22	次年度繰越	1,105,432	1,019,998		345,018
23	支出計	3,990,432	3,517,940		3,280,018
(備考)					
① 日本フンボルト協会寄附口座 預金額 1,806,816円（2022.03.31） 2023年度は大森先生夫人から30,000円、中四国支部の残金として972,641円、6会員より35,000円 （西川伸一会員、山原康佑会員、河野宏会員、櫻田嘉章会員、小林俊郎会員、渡辺紀徳会員より） 利息20円 合計 <b>2,844,477円</b>					
② 2011年度アルムニ賞賞金25,000ユーロ＝2,764,193円（利子を含む）は、ホームページと留学支援サイトの構築のためにあてられた。現在、 <b>残額が115,683円</b> である。フンボルト財団の了承を得て、残額は、「ホームページ管理特別基金」の下におき、ホームページの維持管理のために使用する。（年間維持費 44,000円）					
③ 会費納入会員数の推移（2015）797 /（2016）698 /（2017）635 /（2018）632 /（2019）617 / （2020）575 /（2021）636 /（2022）600 /（2023）487 /（2024）1 /（2025）1					

(資料4)

日独共同研究奨学金基金及び協会財政安定化基金 (2024年03月31日現在)

《日独共同奨学金基金 口座》

収 入		支 出	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	5,540,000円	2019年度2件分奨学金支給	1,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	145,000円	印刷、事務用品(2019年度)	10,815円
外部の個人・企業からの寄付	4,840,000円	送金手数料	29,908円
利息 (2020年8月まで)	113円	2020年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2021. 02. 22)	39円	印刷、事務用品(2020年度)	9,946円
利息(2021. 08. 23)	36円	送金手数料	880円
利息(2022. 02. 21)	33円	2021年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2022. 08. 22)	32円	送金手数料	550円
利息(2023. 02. 20)	29円	2022年度2件分奨学金支給 (2022. 09. 13)	500,000円
利息 (2023. 08. 21)	29円	送金手数料	550円
利息 (2024. 02. 19)	24円	2023年度3件分奨学金支給 (2023. 09. 13)	1,500,000円
		送金手数料	990円
		残 高	5,471,696円
合 計	10,525,335円	合 計	10,525,335円

《財政安定化基金 口座》

収 入	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	2,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	31,000円
利 息 (2020年8月まで)	15円
利息(2021. 02. 22 )	9円
利息(2021. 08. 23 )	9円
利息(2022. 02. 21 )	9円
利息(2022. 08. 22 )	9円
利息(2023. 02. 20 )	9円
利息(2023. 08. 21 )	9円
利息(2024. 02. 19 )	9円
合 計	2,031,078円

(備考) ①寄付金振込手数料は、当初、日本フンボルト協会会計 (予備費) から補填した。寄付期間終了後に、奨学金基金から振込手数料を支出し、日本フンボルト協会 (予備費) に返金した。

② 2019年10月1日以降(募金締切以降) 会員から振り込まれた174,000円は、奨学金基金と財政安定化基金に 5 : 1 の割合で、それぞれ 145,000円と 29,000円を振り分けた。

(2020年4月4日の常務理事会で承認)

資料⑤

2023年度監査報告書

日本フンボルト協会

理事長 伊藤 眞 殿

私は、日本フンボルト協会の監事として会則の定めるところに基づき、  
本会の2023年4月1日より2024年3月31日に至る期間の会務  
の執行および会計収支の状況につき監査を行いました。

監査の結果、上記の期間において会務が適切に執行されており、また関係  
するすべての書類が収支と財産の状況を適正に示していることを確認  
いたしました。

以上、ご報告いたします。

2024年 5 月 29 日

監事 芳賀 雅顯



監事 吉川 泰弘





2024 年度日独共同研究奨学金採択 (案)

(2024.06.08)

1. 課 題： 「実験用ミニブタの成獣を用いた、ヒトへの外挿性の高い精神疾患の前臨床モデルの創生」

ドイツ語： Entwicklung eines präklinischen Modells in Minischweinen mit translationaler Relevanz für psychiatrische Störungen

助成対象者： Nadine Bernhard

学 歴： Leipzig 大学卒業、Uppsala 大学博士、Yale 大学博士研究員、Dresden 大学 Habilitation

所属： Head, Section Neurobiology of Psychiatric Disorders, TU Dresden

研究分野： 実験心理学的な周産期環境因子の研究 (ラット、ヒト)

申請者： 高垣堅太郎 (山梨大学医学部 准教授、脳神経生理学、発達解剖学、ブタを用いたライフスパン脳生理学)

\*\*\*\*\*

2. 課 題： 「ドイツ語の項構造同定を目的とする解析システム (パーサ) の開発」

ドイツ語： 「Die Entwicklung eines Parsers zur Identifizierung der Argumentstrukturen im Deutschen」

助成対象者： Julian Michael Stawecki

学 歴： PhD (2024), Wissenschaftlicher Mitarbeiter, Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf

所属： Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf

研究分野： Germanistische Linguistik/Computerlinguistik

申請者： 宮下博幸 (関西学院大学教授、ドイツ語学、関西学院大学)

\*\*\*\*\*

## 北海道支部 2023 年度活動報告・2024 年度活動計画

2024 年 5 月 28 日

## 《2023 年度活動報告》

- 1) 2023 年 7 月 8 日(土)フンボルト協会との共催という形で David Wolff 先生(北大)の Humboldt-Forschungspreis(フンボルト賞)受賞記念講演会(日本フンボルト協会主催講演会)をオンラインで開催した。
- 2) 2023 年 9 月 23 日(土)千歳科学技術大学のオラフ・カートハウス会員によるハイブリッド講演会を北海道大学で開催した。講演のタイトルは、「マイクロプラスチック」は新しい環境問題ですか?であった。講演会に引き続き、支部総会をハイブリッドで開催し、引き続き懇親会を行った。
- 3) 2024 年 3 月 16 日(土)に実施されたフンボルト協会開催のドイツ研究留学説明会のポスターを印刷して、支部会員と北海道大学の各部局に掲示を依頼した。

## 《2024 年度活動計画》

- 1) 2024 年 6 月 13 日(木)北海道大学において、支部総会ならびにドイツ留学説明会を対面で開催する予定である。

(日本フンボルト協会北海道支部長 居城 邦治)

## 東北支部 2023 年度活動報告・2024 年度活動予定

2024 年 5 月 30 日

## 《2023 年度活動報告》

- 1) 2023 年度に実施されたフンボルト協会主催の留学説明会に関する開催案内を、東北大学教育・学生支援部留学生課海外留学係に依頼し全部局の教員並びに学生にメールによる周知を行いました。
- 2) 今年度は残東北支部総会を実施できませんでした。2023 年度は、9 月 23 日(土)に予定されている「2023 Alumnitreffen in Sendai」に合わせて、フンボルト協会東北支部総会を開催しました。

当日のプログラムは以下のとおりです。記念講演会では東北大の千葉先生によるダークマターを含む宇宙の話をしていただきました。Zoom 経由も含めて 20 名の参加者がありました。8 名の参加者で開催した東北支部総会で活動報告と決算報告が行われ、今後の活動方針について議論を行いました。

記念講演会及び支部総会終了後は懇親会を開催しました。「2023 Alumnitreffen in Sendai」関係者である DAAD の方達も合流し、参加者 19 名で意見交換を含め盛況な懇親会でした。

- 開催日時 2023 年 9 月 23 日(土) 12:00 - 16:00 (懇親会を含む)
- 開催場所 東北大学知の館(記念講演会)  
東北大学材料科学高等研究所(AIMR) 2F 会議室(フンボルト支部総会)  
懇親会(片平・レストラン「萩」)
- 次第  
第 1 部 記念講演会(12:00 - 13:15)  
「近傍宇宙論：古い星に刻まれた銀河形成史と暗黒物質の正体」  
千葉征司 教授(東北大学大学院理学研究科天文学専攻天文学講座)  
第 2 部 フンボルト協会東北総会(13:20 - 13:50)  
開会挨拶 須田利美支部長(東北大学電子光理学研究センター・教授)  
支部の活動について  
その他  
第 3 部 懇親会(14:00 - 16:00)  
会場： 片平・レストラン「萩」  
会費：2000 円程度を予定しております(同伴者も同学)

## 《2024 年度の活動予定》

- 1) 東北支部総会開催
- 2) 日本フンボルト協会活動支援(留学説明会等アナウンスの東北地区大学へ対象者への送付依頼)
- 3) 2022 年度フンボルト賞受賞者、大塚孝治先生(東大名誉教授)の特別講演会開催
- 4) 東北支部会員間の交流活性化を図る

日本フンボルト協会東北支部長 須田 利美(東北大学・電子光理学研究センター)

2024 年 5 月 28 日

《2023 年度活動報告》

○2023 年度総会および講演会

2024 年 1 月 21 日（土）14 時より於・ドイツ文化会館 4 FOAG 会議室（オンライン方式併用）  
（参加者数、会場に約 15 人、オンラインで約 20 人）

講演会（澤田誠二会員、ゲスト浅野忠利氏）

テーマ「近現代の住宅・まちづくり…ドイツ日本にその系譜を辿り共同研究の道を探る」

《2024 年度活動予定》

○関東甲信越支部ウェブサイトの更新

○講演会の開催

2024 年 5 月 25 日（土）14 時より 15 時 30 分（オンライン方式）

講演会（香田芳樹会員、井田良会員、司会・西土彰一郎会員）

「刑罰の歴史と思想」

（参加者数約 30 人）

・今年度中にもう一回を予定

○ドイツ留学説明会を DAAD と協力して開催

2024 年 10 月 12 日または 26 日午後

場所・中央大学茗荷谷キャンパス

（関東甲信越支部支部長 井田良）

中部支部 2023 年度活動報告・2024 年度活動予定

2024 年 5 月 28 日

《2023 年度の活動報告》

I 総会・食事会 12 月 10 日（日）11：30～13:00 頃

講演会 同日 13:30 頃～15：00

話題提供 北村陽子氏（博士）（名古屋大学人文学研究科准教授）

「20 世紀ドイツにおける福祉国家の発展—戦争障害者支援をもとに」

出席者 対面 12 名、オンライン 8 名

II 幹事会

2023 年 09 月 12 日（火）（ZOOM による）

今年度の総会・懇親会・懇話会について、来年度以降の、支部役員について話し合った。当面は現体制で運営し、次年度以降に本格的に検討する。

【参加者：6 名】

《2024 年度の予定》

秋に幹事会と総会を予定

協会からの従来規模の交付金を希望

（中部支部長 和田肇）

関西支部 2023 年度活動報告および 2023 年度会計報告

（1）日本フンボルト協会関西支部支部長引継ぎ会

※6 月に西川伸一支部長から伏木信次常務理事が支部長に就任しました。

日時：2023 年 7 月 22 日（土）12:00～ 伊勢丹ビルにて 参加 5 名

議事：1) 今後の活動について 2) 関西支部会計引継ぎ 3) その他

（2）日本フンボルト協会関西支部総会・講演会（参加者 22 名）

日時：2024 年 3 月 3 日（日）13:30～拡大理事・評議員会及び 2023 年度総会  
14:00～16:00 講演会

会場：京都府立医科大学附属病院内 臨床講義棟 北講義室

講演会テーマ：「最新技術による医学研究と日本・欧米における自然科学研究推進に対する取り組みの違い」  
講演1：「難治性免疫疾患のシングルセル解析による病態解明」

藤井 渉会員（京都府立医科大学 免疫内科学 病院助教）

自己免疫疾患である膠原病には間質性肺疾患や血球貪食症候群などの重症合併症があるが、その分子病態は十分解明されておらず治療に難渋することが多い。臨床現場では症状や血液・画像検査、病理検査などの検査結果などから治療方針を決定するが、身体侵襲性の観点から十分な検査が難しいこともあり、より侵襲性が低く診断や治療に寄与する検査方法や治療法が望まれている。

演者はドイツ・ボン大学留学中に慢性閉塞性肺疾患（COPD）における免疫細胞研究に従事し、シングルセル RNA-seq を用いた網羅的遺伝子解析により肺胞マクロファージと好中球の機能・亜分画変化を解明した（Cell Reports 2023, Front Immunol 2022, ERJ Open Res 2021）。

帰国後にこの研究手法を膠原病に応用し、間質性肺疾患の気管支肺胞洗浄液と、血球貪食症候群の骨髄穿刺液の網羅的解析を行い、疾患間の違いや重症例に特徴的な免疫細胞分画と発現変動遺伝子を同定した。特に重症間質性肺疾患の特徴である免疫細胞分画は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の重症化例で報告された特徴と一致しており、重症ウイルス肺炎と自己免疫疾患による間質性疾患に共通の病態機序が推測された。一方血球貪食症候群では骨髄中単球分画の一つが高い血球貪食能を呈し、この細胞分画が疾患バイオマーカーや新たな治療標的となる可能性が示唆された。

講演2：「がん病態の多様性の中にある普遍性」

林 嘉宏先生（立命館大学 薬学部薬学科 腫瘍病態制御学教授）

1979年に、ラウス肉腫ウイルスの Src 遺伝子の相同遺伝子が正常細胞で同定され、1980年代以降、「がんは遺伝子の異常でおこる」という概念が確立していった。2000年代に入ると次世代シーケンス（NGS）技術が開発され、最初の NGS 装置が2007年に市場投入された。その後、がんのゲノム解析が飛躍的に進展し、現在、がんゲノム医療が進められようとしている。

骨髄異形成症候群（MDS）は、造血幹細胞に生じた遺伝子異常に起因して発症する難治性血液がんである。MDSでは、他のがん種に先駆けて遺伝子変異解析が精力的に進められ、これまでに100種類近くの遺伝子において MDS の発症に関わる変異が同定されている。他方、この10年ほどの間に、MDS クローンにおける自然免疫応答シグナル経路制御異常の存在が示され、それに伴う慢性炎症と細胞死の機構が、MDS のさまざまな疾患表現型やクローン生存の根幹となっていることがわかった。しかし、MDS で同定される遺伝子変異には疾患特異性が乏しく、他の造血器腫瘍においても同様の遺伝子変異が同定される。多種多様な遺伝子型（genotype）のもとで、どのようにして MDS の病態（phenotype）が生じるのかについては未だ十分な解明がなされていない。

私たちは、MDS における genotype/phenotype ギャップに着目し、多様な遺伝子型を一つの疾患表現型に結び付ける普遍的プロセスが存在するのでは？と考えて研究を進めてきた。本講演では、MDS 病態形成における HIF1A シグナル経路活性化や、ミトコンドリア動態制御異常の役割について紹介する。

講演後、テーマについての質疑応答・討論がなされた。

（3）関西支部ホームページを更新した

関西支部ホームページ：

<http://www.s-off.com/member/avh-kansai/>

《2023年度日本フンボルト協会関西支部会計報告》

（2023年4月1日～2024年3月31日） 単位:円

収 入		支 出	
前期繰越金	221,384	総会費（謝礼3万円×2名）	60,000
2023年度日本フンボルト協会運営助成金	0	通信費（ハガキ63円×65名）	4,095
		ホームページ更新費(2023年度分)	0
		事務費(作業・管理費、コピー代)	52,640
		交通費	0
		次年度繰越金	104,649
合 計	221,384	合 計	221,384

日本フンボルト協会関西支部長

伏木 信次

## 中国四国支部 2023 年度活動報告・2024 年度活動予定

### 《2023 年度活動報告》

○支部会員のネットワークを構築し交流の契機となるよう「支部通信」を作成し、メール等で配信した。日本フンボルト協会 2023 年度総会報告に加え、2 名の支部会員から寄稿いただいたエッセイを掲載した。メールアドレス不記載、セキュリティチェックにより送信できなかった会員には郵送した。

○西日本フンボルト協会時代から受け継いできた支部活動助成金 972,641 円を日本フンボルト協会に寄付金として提供した。支部役員会に諮ったうえで支部会員に報告了承をえた。

○Tübingen 大学学校教育部 Thorsten Bohl 教授、Nina Beck 専門員を招いた日独教育学と教員養成に関するオンライン・ミニシンジウムを後援し、教育学関係会員の参加をえた。

○ドイツ留学説明会への協力

オンラインドイツ研究留学説明会について関係大学、学会、会員に広報し、関心のある若手研究者に参加を呼び掛けた。数人の会員から協力の返信があり、関係大学機関内で広報した。

### 《2024 年度活動計画》

○支部会員のネットワークを構築し交流の契機となるよう「支部通信」4 号を作成し、メール等で配信する。支部会員 2 人のエッセイを掲載の予定。

○ドイツ教育学に関するオンライン公開講演会を共催する。ドイツ教育学会教育哲学ディヴィジョン代表 Malte Brinkmann 氏の来日にあわせた講演企画。

○前年度に引き続きドイツ留学説明会に協力するとともに、支部地区内での日独学術文化交流に資する活動を支援する。

(常務理事・支部長 坂越正樹 広島文化学園大学・短期大学学長)

## 九州フンボルト会 2023 年度活動報告・2024 年度の活動予定

### 《2023 年度の報告》

2023 年度総会、講演会を以下の通り開催した。

日時：2024 年 4 月 25 日 (木) 18:30~20:30

Zoom によるリモート開催

参加者：7 名

講演会：土井和重准教授 (北九州市立大学法学部)

テーマ：「学説と実務の協働を可能にする日本法研究—日本法研究の新たな担い手とその可能性」

今年度の講演会は、リモート開催とし、会員間の懇親会も行わなかった。

また、事務局の準備状況から、2023 年度の総会と講演会を 2024 年 4 月 25 日に行うことになった。

### 《2024 年度の活動予定》

- ・2024 年度総会および講演会を開催する (2023 年秋から冬)。
- ・総会および講演の開催方式は、可能であれば、対面で行いたい。状況によっては、2021 年度から 2023 年度までと同様にオンラインによるリモート開催とすることも検討する。
- ・例年行ってきた会員間の懇親会も、状況が許せば、実施を検討する。

(常務理事・九州支部長：武内謙治 九州大学大学院 法学研究院教授)

(九州支部長 武内謙治)